

地区名 秋田市

所在地 秋田市河辺和田

バス駐車 × 大地のつくり

トイレ × 水のはたらき

## 露頭までの道のり

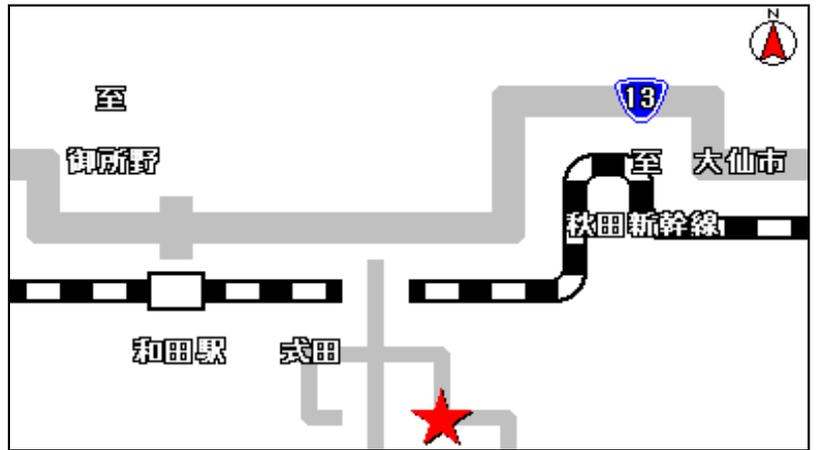
国道13号線を大仙市から秋田市に向かって北上し、河辺和田付近より左の側道に入る。そのまま奥羽本線をくぐり、川を渡ると左手前方に見えてくる。

## 安全上の留意点

会社の資材置き場、砂取り場となっているので、礼儀作法とともに、重機の出入りに気をつける。露頭は全面が砂や礫で構成されており、崩れやすい。観察は手の届く高さで十分である。また、崖がほぼ垂直なため、露頭に近づく際には崖崩れの恐れがないかよく事前調査をすること。

## 観察のポイント

- ①大きな地層の広がりを感じる事。
- ②地層が奥まで続いていること。
- ③角のとれた丸い礫や砂が多いこと。
- ④角ばった火山岩が見あたらないこと。



## 地質年代

第四紀更新世後期(1~15万年前)

## 解説

潟西層(もしくは、河成段丘堆積物)と見られ、最終氷期に堆積した層である。角のとれた礫および砂などから構成されており「水のはたらき」でできた大地であると判断が可能である。

秋田県が深い海の底だった時代から、徐々に浅くなってきたころの地層で、大きな礫や砂が堆積するようになったものである。化石は、この調査からは発見できなかった。(筆者独自調査)

## 露頭概観

## 指導形式

A,B,C



級化層理がはっきりせず、礫の層と砂の層が互層構造になっている。堆積当時に川などが流れの強弱を繰り返していたことが想像できる。



足下には河原で見えるような角のとれた大きな礫が散らばっている。水のはたらきでできた層を裏付ける証拠となる。



手に取った砂は粒が粗く、まさしく砂と云った感触である。直径が2mm以上だと礫の分類なので、かなり大きな部類の砂だと言える。